議席2番　飯田　進　議員

Q.新型インフルエンザ感染が拡大流行しているなか、町内各小中学校等での学級閉鎖はどのような状況か、授業時間確保への影響はないか。

A.本日まで、学校閉鎖が1校、学年閉鎖が2校、学級閉鎖が31学級となっております。授業への影響については年間の授業時間は35週で計画されており、ある程度の余裕はある状況でありますが、今後不足が予想されることから各小中学校の実態に応じた対応を校長会でお願いしたところであります。［教育長］

Q.当町において学校給食にはどれくらいの割合で地元農産物が使用され、地元農産物の特徴や栄養価等について児童生徒への理解を深めるのにどの様な方法を講じているか。

A.当年度の境町産は、4月21％、5月17％、6月16％、7月7％、9月24％、10月10％となっており、献立表に明記し、校内放送や担任からも説明しております。これからも地産地消に取り組んでまいります。［給食センター所長］

Q.菜の花祭り後の河川敷を利用して景観作物を導入してはどうか。

A.気象条件等を考え、適する作物があるか検討して参ります。［産業建設部長］

Q.当町におけるいわゆる無保険の子の実在状況、並びに今後の対策は

A.保険税滞納世帯については短期保険証の交付を実施しており、中学生以下の子供がいる世帯の保険証の無交付はございませんが、今後も充分考慮して参ります。［保険課長］

各機関に意見書を提出

○首都圏中央連絡自動車道の着実な整備を求める意見書

［即日原案採択］

平成24年度開通が予定されている圏央道が県内道路事業費の最大40％が削減され、つくばジャンクションと五霞インターチェンジを経由して、久喜白岡ジャンクションを結ぶ区間の供用開始時期の見直しの報道が伝えられたことから、「首都圏中央連絡自動車道の着実な整備を求める意見書案」を全会一致で採択し、政府関係機関に提出しました。

所管事務調査報告

○議会運営委員会

当委員会は、昨年9月29日、議会改革に積極的に取り組んでいる宮城県蔵王町議会で視察研修を行ってきました。

蔵王町は、人口1万3千人で議員定数16名、平成20年6月に議会の活性化を図るため、議会改革検討委員会を設置し、北海道の白老町や栗山町を視察し、平成20年の第4回定例会において、通常3月、6月、9月、12月の年4回開催している定例会を年1回とする通年制議会を導入する関連議案2件を全会一致で可決して、昨年1月から実施し、これは北海道白老町議会に次ぐ全国2例目であります。

この通年制議会導入によるメリットは、議会の権能強化が図られ、緊急に審議が必要になった場合、臨時会の開催が必要なく、又、いつでも議案の提出ができるなど、議会が主導的、機動的に活動できるとのことです。又、デメリットは、節目がなくなり緊張感が薄れることや事務局への負担増等が上げられるとのことでした。

蔵王町議会では、この通年議会のほか、年2回の議会報告会を実施し、議会への住民参画など、17項目の改革に積極的に取り組んでいるとのことでした。

この視察研修で、住民ニーズを町政に反映させるための機動的な議会を目指して、議員一丸となって議会改革に取り組んでいる様子を強く感じました。

当委員会としましても、引き続き議会改革の方向性を協議検討し、町民にわかりやすく、そして開かれた議会を目指して行きたい考えであります。

今回の視察研修にあたり、蔵王町議会の皆様には公務ご多忙にもかかわらず、有意義な研修をさせていただき、厚くお礼を申し上げます。

蔵王町

○産業建設委員会

当委員会では、昨年10月14日に群馬県玉村町の夏祭りの花火大会、15日に埼玉県吉見町の農業集落排水事業の実施状況を視察研修してきました。

先ず、玉村町の夏祭りの花火大会は、第1回を昭和63年に商工会の青年部が主催で、その後は、各種団体で構成する実行委員会が中心となり、そこに花火を愛するボランティアの方が加わり実施しているとのことです。

昨年の予算は、企業等の協賛金が680万円、町民からの寄附金が260万円、町補助が350万円で実施したとのことです。

この玉村町の視察研修において、昨今の社会環境の大きな変化により、住民ニーズの多様化等、山積する行政課題に対応するために、住民と行政がそれぞれの役割を理解し、分担しながら知恵と力を合わせ「協働のまちづくり」のために、夏祭りを始め各種事業に町と住民が積極的に取り組んでいる意気込みを強く感じました。

次に、15日には吉見町を訪問し、農業集落排水事業の取り組み状況を視察研修してきました。

吉見町では、昭和61年度から農業集落排水事業に着手し、現在7地区で1千365戸が使用し、総事業費は68億円をかけ、平成20年度から残りの1地区を平成26年度供用開始に向け、現在進めているとのことでした。

課題は、施設の老朽化に伴い、維持管理コストの高騰が予想され、施設の長寿命化と経費の平準化を図るために、ストックマネジメント手法を活用した整備構想により、低コスト化を図り、健全な運営に努めて行きたいとのことでした。又、整備状況は概ね公共下水道事業が20％、農業集落排水事業が20％、合併浄化槽が60％とのことです。なお、当町の静第3地区とは施工上の違いはありますが、真空弁方式を採用している地区の新規加入者の分担金は、条例で70万円と明確に規定しているとのことでした。

この視察研修において、当町においても、今後の施設の運営にあたっては維持管理のコストを削減し、健全な運営に努めていかなければならないと感じました。

以上、2日間にわたり研修をしてきましたが、公務ご多忙にもかかわらず、有益な研修をさせて頂いたことに対し、玉村町及び吉見町の関係者の皆様に衷心よりお礼を申し上げます。

議会の活動状況

11月	10日・全員協議会 ・圏央道境IC（仮称）周辺開発特別委員会 13日・「首都圏中央連絡自動車道（圏央道）及びアクセス道路等の建設促進に関する要望書」を県へ提出 20日・議会運営委員会 24日・全員協議会 ・第5回臨時会 ・行政改革特別委員会
12月	4日・議会運営委員会 8日・行政改革特別委員会 10日・第4回定例会　開会 14日・全員協議会 ・議会運営委員会所管事務調査（大洗町議会） 15日・一般質問 16日・一般質問 17日・常任委員会 ・第4回定例会　閉会
1月	8日・広報編集委員会 15日・全員協議会 19日・広報編集委員会 21日・議会運営委員会 ・自治基本条例講習会

玉村町

◎広報編集委員会
委員長　新谷　一男
副委員長　濵野　健司
委　員　田山　文雄
委　員　須藤　信吉
委　員　渡邊　昇